

高度な溶接技術を追求めたものづくり 自社の強みを活かして、社会に貢献する

株式会社シラヤマは、1949年に創業以来、スチールを中心とした製品とその技術を主として展開をしてきた。その後、ステンレスやアルミ材等に関して自社独自の製品技術を磨き、現在は、近代建築の大空間を構築するには欠かせないカーテンウォールを市場に送り込んでいる。他には橋梁工事、特殊熱押出形鋼、大型機械製缶等を製造し、官公庁などに数多く納品している。また数々の特許や商標を取得し意匠金属・鉄骨の分野をリードする。

●所在地 東京都江戸川区平井2丁目1番8号

●電話/FAX 03-3682-8355/03-3682-7160

●URL <http://www.shirayama.net/>

●代表者 代表取締役会長 白山 良一

●設立 1949年

●資本金 3,600万円

●従業員数 59人



超高層ビル建築における高難度の要求に応える高い技術力

同社は、高度な溶接や歪み取りの技術を用い、日本全国の超高層ビルのガラスを支えるためのスチール製支持材を製作している。この超高層ビルのガラスを支えるための支持材は、意匠性、溶接、曲り、長尺、耐用年数など難度の高い技術が求められる。「人生は一生勉強、死ぬまで努力。技術をもって社会に奉仕せよ」を社訓とする同社は、技術力を向上させ、精度管理、品質管理を徹底し、優位性の高い製品を製作していくことで、これに応えてきた。代表的な製品に東京スカイツリーの展望台の支持材がある。



超高層ビルで使用されるスチール製支持材

自社の強みを活かして、社会に貢献することで業績を拡大する

全国には橋梁が70万橋以上ある。それら橋梁の中には修繕やメンテナンスが必要なものも少なくない。そこで、独自の鋼加工技術を利用し、橋梁が持つ課題を解決する製品を取揃えてきた。例えば、狭い橋梁は、通勤・通学時の安全性の確保や、災害時における迅速な避難ができない。この課題に対し、桁や橋脚の補強は不要で、通行を止めず、施工期間を短縮しながら、橋梁を拡幅する特許工法を提供している。このように同社は、自社の強みを活かし、社会に貢献することで業績を拡大している。



同社の強みを活かした橋梁土木製品

さらなる生産性向上と品質向上への取組

さらなる生産性向上と品質向上を図るために次の4点の取組を行っている。

- ①ISO9001:2015を元に工場における品質管理システムを継続的に改善し、成熟化させる。
- ②機械設備等を新規導入しインフラ整備を進める、そして生産性向上を目的として、社員を多能工化する教育を実施する。
- ③社内のパソコンをネットワーク化することで情報の見える化を推進し、社内コミュニケーションの活性化・充実化を図る。
- ④電子化を推進することにより、製作工程のコストを20%低下させる。



ISO9001:2015認証の千葉工場